

令和元年度第 1 回 部会報告について

- ◆ 暮らしの安全・安心部会関連 P 1
- ◆ こどもの未来部会関連 P 6
- ◆ まちの未来部会関連 P10

くらしの安全・安心部会での主なご意見

◆地域自主防災力の強化について

異南地域の課題になるが、地域防災リーダー研修会を6回実施しているが、参加してそれで終わってしまっている感がある。

研修会では、地域、せめて町会の役員さんが集まっていたいて、研修会で学んだことを地域に伝えるようにしていかなければならない。

◆避難所開設と装備品について

去年の台風21号、24号で大きな被害を受けて、今後、地震による避難所の開設以外に、台風の場合にも、積極的に避難所を開設するのかどうか。

また、今後の取組みの部分で避難所派遣職員への装備品の強化とあるが、基本的に避難者が各自で用意する水や食糧などが、なかなか用意できないこともあり、装備品の強化で具体的にどんなことを考えているのか教えてほしい。

地震だけでなく台風の場合も、避難所の開設は、大阪市全体のルールの中で判断され、区に開設の指示がある。去年の台風21号の際は、なかなか市からの開設指示がなく、区独自で開設の判断をして混乱したこともあったが、今後は市全体のルールの中で、区として判断できるところは的確な判断のもと開設のルールづくりをしっかりとやっていきたい。

避難所の装備品の強化については、当然、ある程度の想定避難人数に合わせた避難物資の確保はしていく。また、去年の災害を通じたご意見を受けて、LEDのランタンや、IP無線機などの装備も進めていきたい。なお、情報がなかなか避難所に入りにくい状況があったことから、台風24号の際にはラジオも配備したが、今年度はタブレット端末を避難所に用意して情報収集する手法も進めていきたい。

◆避難所の被害と今後の対応について

大事なことは、小学校、中学校の避難所に、ブロック塀のひび割れや体育館の屋根など大きな被害が出ているということ。

これら避難所において、ブロック塀の点検はどうだったのか、また、小中学校の耐震調査はどうだったのか、今後の問題として、トイレの洋式化や、体育館の空調があるが、その計画はどうなっているのかなど、やはりきちんと報告をして今後の計画を立てるべきではないかと懸念している。

ブロック塀については、小学校、中学校の関係の部分については、必要なところは、順次、本市教育委員会で対応して工事を進めている。

耐震については、小中学校の耐震検査は全て終わっていると聞いている。また、トイレの洋式化については、学校施設として順次進めており、災害時には各避難所に対して簡易トイレが一斉に設置できるような協定も結んでいると聞いている。

体育館の空調については、国の動きもある中で、本市でも各区に1校ずつ空調を設置する動きがあり、生野区も中学校1校に設置する方向で進めている。

◆要支援者の避難計画について

要支援者の避難計画については、モデル地域を決めて具体的な方法を情報共有して進めるとの説明であったが、災害は必ずやってくるし、いつ来るかわからない中で、どういう計画を立てているのか。

要支援者の避難について、日頃からの見守りが大切であることから、各地域の特色ある見守りの取組について情報共有会を行っており、今後も年に何回か行いながら、地域の皆さんとの顔つなぎができるように進めていきたい。

◆災害に対する意識について

基本的には台風、地震への認識をもっと大掛かりに捉まえる必要がある。

去年の台風で感じたことは、やはり住民自身がやっぱり大変なことがこれから起きるんだという認識、自意識がまだまだ足りないと思う。毎月地域での定例会などもあるだろうが、私たち住民には余り伝わってこない。

避難所へ行く、自分でリュックサックに何か詰めてみるなど問題をきちんと認識できるような広報等によって、いろいろなことを伝えていってほしい。

例えば、夏祭りのときに、防災マップについても、配れるのであれば配らせていただける、何でもそういう協力はできるので、防災も含めて区民に浸透していけるような取り組みをしてもらいたい。

◆避難マニュアルについて

今後の取組みの中で、地震のときの避難のマニュアルと台風のときの避難のマニュアルが必要だと思う。地震の場合は、長期になり、台風の場合は1日、24時間ぐらいで終わるので、その辺りを分けて対策を施していけばいいと思う。

◆事故の防止について

最近、自転車の事故が多く、非常に自転車のマナー違反が多い。例えば、二人乗りや左側通行を守らない、信号無視や携帯のながら運転、こどものヘルメット未着用など。そのため、1例として、桃谷商店街では、自転車を歩いて押してくださいと放送をしているが、それでも乗っている人が非常に多い。

鶴橋商店街千日前通り側でも、狭いのに自転車に乗っている人が非常に多く、交通安全週間の取組が何回か実施されているが、自動車が主な対象となっているように思われる。

交通安全週間において、1日だけでも自転車を重点的に取り組んでいただきたい。

◆「通学路」について

生野支援学校の生徒さんたちが、小学生、中学生ができるだけ集団登校で通っているが、新しい道が出来て、車が増えて、結構スピードも出ているので、非常に危険を感じる。実際どのルートが子どもたちにとって安心、安全なのかというのも一度お話をさせていただければと思う。

通学路というのは、基本的に学校長が判断する場合が多い。地域の方も不安に思うほど、まちの様子もかわってきているということも踏まえて、まずこういう声もあるということも学校長に伝えて、どう

という方針なのか、より安全な方向で考えていかなければいけない。もし何か課題があるのであれば、一緒に考えたいと思っている。

◆「外国籍住民とのコミュニケーション」について

近隣の5階建てのマンションで外国人の居住者が大人数になっており、地域住民としては、何とかコミュニケーションを図りたいと思うが、なかなか図れていないのが現状である。

コミュニケーションは必要と思うが、なかなか最初の垣根が超えられないのが実態で、何かいいアドバイスがあれば教えてほしい。

マンションの管理者を通じて居住者の外国人とつながったり、マナーやルールなどの必要な情報を伝えたりする方法もある。

また、生野区は「やさしい日本語」の取り組みを進めているが、やさしい日本語は翻訳アプリで正確に翻訳されやすい利点もある。

日常でのやりとり、コミュニケーションをどのようにとっていくかがとても大切で、地域において、外国人とのかかわる機会を少しずつとっていただいている事例をまち協のブロック会議でも紹介するなど、情報発信や情報共有させていただく機会をふやしていきたい。

生野区は日生日本語学園と協定を結んでいることから、コミュニケーションの場を提供したりするなどの相談には応じたい。

◆いまざとライナーの乗車数について

今里ライナーが4月から走っていて、毎日すれ違いながら沢山の方が乗っているのかと気にしながらすれ違うが、乗車状況はどうなっているか。

おおまかな数字で、大体平均1台に10人ぐらい乗っている。4月は大体1日1,200~1,300人で、連休明けからは1,800人ぐらいになっているとのこと。利用率、利用者はだんだん増えていっている状況。

◆いまざとライナーの周知について

広報いくので今里ライナーのことを掲載していたかどうか。

これは、生野区民の本当に悲願であり、基幹を走る今までにない試み・実験なので、広く周知をしていくべき。

広報いくの3月号に路線図と一緒に掲載している。今後、広報紙の全戸配付になったタイミングとか、その後もできるだけたくさんの人に何度も告知をしていきたい。

7月号では、夏休みイベントの特集もあるので、いまざとライナーで行けるイベントも紹介したい。大阪メトロが作成した、いまざとライナー読本というおしゃれなフリーペーパーもある。また、「いくのぐらし.com」のウェブサイトでも情報発信をしていきたい。

◆「各種検診の受診率」について

大阪市は、特定検診、がん検診の受診率がとても低いが、さらに低いのが生野区である。

目標の立て方について、保健福祉センターに何人が受診ということではなく、何パーセント上げるんだという計画を持ってしっかり目標数値を立ててやっていかないと、なかなかこの低い受診率というのは上がらないのではないか。

毎年度の区の運営方針の目標設定の必要性から、当該目標を立てており、医療機関をあわせた受診率は平成33年度に市平均に追いつくという受診率の目標を掲げてやっている。

今年度については、他の区でやっているような新しいやり方を取り入れるなどし、いろいろと試行錯誤しながらなんとか区民の皆さんに検診を受けようという意識を持っていただくように努力していく。

こどもの未来部会での主なご意見

◆生野区西部地域学校再編整備計画について

地域によって温度差がすごく、全く知らない保護者の方もいるのが現状である。私も昨年に話を聞いて、進捗状況を知ったぐらいである。もっと話を聞く場が増えないと、今も全く知らない保護者がたくさんいると思う。

学校設置協議会の設置目標が4中学校区で実績が3中学校区で目標未達成というのは違和感がある。その他の目標設定数値でも、初期設定値はどういう根拠に基づいている数値なのか疑問である。

前年度の目標から、さらに上になるような形で目標設定を行っている。当然、目標数値を上回る項目については、さらなる目標設定を掲げてまいりたい。

平成30年の11月に中学校区学校設置協議会が設置されたということだが、やっぱり地域と学校は離すことができないのに、不参加の地域があるというのはとても残念なことだと思う。これからこの不参加の地域に対してはどのように働きかけていく予定にされているのか。

統廃合の案に納得しきれていない部分や、通学距離の問題や残された学校跡地の問題など、いろいろ不安な部分もある中で、具体的にいろいろご相談しながら、解決策を一緒に考えていくという形で話をし、皆さんに参加いただけるように取り組んでいかなければならない。特に通学路の問題に関しては、区独自のルールが適用できないかということも含めて、地域にもまた話をさせていただきたい。

学校再編のことに関しては、私は区役所から聞きたいことや説明については本当に十分過ぎるぐらい聞いているが、それを説明する場もたくさんあったし、情報を取りに行かない人たちが聞いていないと言うのは、ちょっと違うのではないかな。

もし気になるとか自分たちのことだと思うのであれば、その場に行って話を聞くべきだし意見も出してほしい。

◆桃谷中学校の開校にあたって

再編で一つになった桃谷中学校について、それに携わった方たちの思いというのを、鶴中の閉校式のときの言葉などいろいろなものを見せてもらったときに、胸がつまるくらい皆さんの思いが詰まっていて感動した。

1 + 1 = 2 じゃなく 3 にも 4 にもという思いを、私たちはそこをもっと深めていかなければいけないと思うし、本当にやってよかったと思えるように、歩いていく一步を私たちは助けていかなければいけないと思う。

◆学校・生徒の風紀について

学校が荒れていることについて、PTA全員で学校に毎日交代で、みんなを見守っていこうということで3年間行った結果、子どもたちも挨拶ができるようになった。保護者が見守っているという形に持っていったら、子どもの荒れているのもちょっと落ちつくのではないかと経験上思った。

また、生徒だけではなく、先生の方も少し気になる言動がある。

区長には、区担当教育次長として、生野区内の公立小中学校、幼稚園に対しての学校施策の後押しをしたり評価をしたりするという役目がある。

そこで、学校に出向いて校長先生の話の聞いたり、地域の方の意見も聞いたり、実際の子どもたちの様子を見て、助言したり、教育委員会と連携して何らかの支援をし、そういった立場にもあるので、今日いただいたご意見は、また学校のほうにも返せるようにしたい。

◆各取組の目標達成について

生涯学習の発表について、舞台の上にいろいろなものを展示するというのがほかの区にはないらしく、展示されているのかというご

意見をいただいたりして、本当にすばらしい、いい企画であったなと思う。

“いくの de 育～の”の活用ということで、アクセス数も9,191件あって、皆さんがその情報を楽しみにして見ているのではないかなという、本当にこれがあらわれた数ではないか。

生きるチカラを育む絵本プロジェクトの中で、「わくわくいっぱい、絵本 PARK inいくの」に参加された方も673名、写真など見せていただいたが、たくさんの方が参加されていて、こういうことから子育てって楽しいと思ってくれたらよくなるんじゃないかなと思った。たくさんいろいろなイベントとかも頑張っているのを見て、私は単に目標達成という言葉にになってしまうのがもったいないなと逆に思っている。

◆人材バンクの活用について

授業でわからないところはそのままにしておく子どもがたくさんいる。そんなときに、授業が終わったときにすぐに対応できるようなシステム、例えば人材バンクなど、教育資格を持った方とか、あるいは大学生に少しフォローしてもらえればいいかと思う。

子どもたちは自分が興味のあることであれば、どんどん進んでいくので、人材バンクも含めて地域にいる有資格者、司書の方に来ていただいて、図書館はいつも開いているという形を少し考えていただけたらありがたい。

◆子育て支援の取組について

生野区は主任児童委員も多くて、なかなかまとめることも容易ではなく、子育てイベントをすることが難しいと思っていたところ、5年ほど前から区役所の子育て支援室のほうに協力いただいたのがきっかけとなり、こういうふうイベントをして、3回もしているのと他の区の方から言ってもらえるようになり、協賛・協力していただく方がすごく増えて、こうやって人数も増えている。

小学校になった途端によその区に引っ越してしまうというパタ

ーンが少し多いように思われるので、手が離れると自分らで暮らしていくというか、それがもったいないと思う。

居場所という形で子どもたちがいる場所をつくってあげて、貧困だけではなく、別にお金のあるなしに関係なく、みんなが寄れる場所をつくっていただきたいと思う。

今までもずっとこのいくのっ子広場のことも絵本展等もいろいろ区役所のほうから、私たち児童委員に相談をしていただいて、たくさんこういうイベントができたことにすごく感謝している。

◆外国のこどもたちへのやさしい日本語について

大池中学校では、いろいろな国の子どもたちが来て、日本語が全く話せなくて、生野区長が推進されているやさしい日本語をもっともっと推進して広げていって、それを理解していってくれたら、救われる子どもたちが沢山いると思う。

みんなが横のつながりを持って、やさしい日本語を推進していただけたら、いろいろな国の子どもたちも助けられるのではないかなと思う。

まちの未来部会での主なご意見

◆高校生のインターンシップについて

地域の匠ともっと連携して何かイベントなどを開催して活性化することが必要ではないか。チラシ等で宣伝願いたい。

基本は生野工業高校の生徒を対象にしている。以前、アンケートにおいて、生野区のものづくりを知らなかったという意見があったため、実際に体験し興味を持ってもらう予定だったが、ハローワークが開催するイベントと重なったため、結果、目標達成には至らなかった。今年度はやり方を見直すとともに、積極的にPRしていく。

事前のPRが行き届いていなかったと思う。また生野工業高校に限定せずに、広い観点からPRを行ってほしいと思う。

インターンシップの募集前に、ものづくり百景のパネルを生野区工業高校の廊下に並べるなどし、この中から選べるというかたちをとるのもひとつの手である。

協力いただける企業となるため、こういったつながりが出来ているところが中心となる。ものづくり百景のパネルの件については、今後の参考にさせていただく。

仮に100人がインターンシップしたとして、うち1人でも就職する人がいたらよい。評価項目の中で地元での就労を重点に置いた方がよいのではないか。

インターンシップは就職しようとして参加しているのか、こういう企業があるということで参加しているのか。就職するために参加するのであれば、企業側として雇い入れが可能なのか。どうすればインターンシップに参加する人を増やすことができるのかを考えるべきである。

まずは広く知ってもらうことから始めている。今年も同じやり方で実施するかについては、今後検討したい。よく知ってもらうという

ことであれば、大阪テクノマスターという制度がある。そこに選ばれた方はものづくりのマスター、プロということで表彰されている。また、一番大事なのは、これからの子どもたちにもものづくりの楽しさや良さを知って頂くことだと思っている。

日本の伝統的な文化、ものづくりは、別に日本人でなくても、外国人も一生懸命やっている。また工業高等学校でなくても、普通科の高校でも何でもいいと思う。工業高等学校以外にも周知することで、もしかしたら大学に行こうと思ったが、こっちの方がいいという人も出てくるかもしれない。

紹介する学校をもっと広めれば参加する人も増えるのではないか。

◆廃業状況について

これまでに掲載しているものづくり企業の中で辞退された会社はないのか。桃谷ロイターを作成している中でも、次号で掲載する予定であった会社が先月廃業したことから、ものづくり百景ではどのような状況なのか伺いたい。

現時点で廃業は2社あるが、廃業されても中身は見ていただくことは可能である。

工業統計調査を実施しているなかで、去年は1件、今年では3件が廃業であった。西生野の管内で30件ほど回っているだけでも3件が廃業しており、起業の話は聞かない状況である。

ものづくり企業の廃業を少しでも防ぐために何かいい手立てはないか。区民に知らせることも大事。廃業を少しでもなくしていくためには、一覧表などを作成し、PRを行っていないと後継者はいなくなっていく。今のうちにどんどんPRをしていかないといけない。これから何度も取組をしていかないと、結果は難しいのでは。

◆外国人問題について

最近、外国人が非常に多く住んでいる。災害が発生した場合、それらの外国人に対して、どのように対応すればよいか。また、夜に騒いでトラブルにもなっているが、言葉がしゃべれないため静観している。今後、人数が増えて、もっと大きな問題になったら大変である。これからの方針を聞きたい。

昨年10月からやさしい日本語の取り組みを始めている。ステッカーは日本語だけではなく、英語、中国語、韓国語、ベトナム語に翻訳しており、やさしい日本語の缶バッジも2種類作成している。また、日生日本語学園と包括協定を結んでおり、やさしい日本語や多言語化にも取り組んでいる。今後、日生日本語学園に協力いただき、いろんなイベントでやさしい日本語を体験できるコーナーを作るなどの機会を増やすなど、講習会を開催していきたいと考えている。また、「ボイストラ」というスマホの翻訳アプリも役立つ。災害時のやさしい日本語でのツイッターやフェイスブックでの発信も行っている。

◆外国人とのコミュニティについて

外国人に対し、一人でも優しい言葉をかけていくことが大事である。コンビニに行くとほとんどの店員が外国人である。どこから来たのかなどの日常会話をしている。そういった会話が広がれば、相手と通じ合うことができると思う。一度みなさん試してみてほしい。

日生日本語学園から同学園の生徒に対して、入居する際に生活マナーを書いたものを渡してもらっている。以前は夜中に騒いでいたが、今は夜も静かである。やはりこちらから働きかけをしてあげないと相手はわからない。

中川地域では、災害対策用に「イージートーク」という翻訳機を2台購入した。WifiやSIMカードでのネット通信環境が必要。海外でテストしたが、きちんと使えた。防災や犯罪、病気など不慮の際に困った場合やイベントにも利用できる。

昔から外国人の近隣迷惑でいい思いをしていないことも多いため、警察に対処してもらったこともあり、どこか拒絶反応がある。そういったネガティブイメージもあるのも現実としてある。

確かに、そういった問題があるのも事実であるが、現実には今外国人が住んでいるのも事実であり、やはり互いに仲良くしていくしか道はないと思う。この4月から外国人労働者も沢山入国してくるので、時間はかかるが、我々も意見を出し合って、ひとつひとつ積み重ねていくしかないと思う。

◆空き家対策について

ある地主の方が近くにいるが、空き家を放置しているため、今ではごみの山になっており、うち電化製品が半分くらい山積みになっていた。今はネットで覆っている。地主がいる限り法的には何もできない状態とのことである。また以前よりもひどくなっているため、防犯カメラを設置してもらったが、放火が心配である。強制執行ができる方法はないのか。

大きな課題として認識している。特定空き家において、危険な空き家に対しては指導を行い、場合によっては強制代執行を行っているが、要件について、明確な基準が大阪市ではないため、庁内の関係局が集まって基準づくりの検討を進めている。また報告できる段階になれば報告させていただく。

以前にごみ屋敷で強制代執行を行っていたが、そちらの扱いでの対応はできないものか。

空き家の問題はいろんな問題が複層している。コミュニティとともに解決していかなくは

オーナーが高齢化して、空き家の売買手続きも面倒となるなど、非常に解決が難しい。

ごみ屋敷というのは、基本、人が住んでいることが前提である。また大阪市内でごみ屋敷条例があるが、これまでに適用されたのは1件

のみである。自分のごみではないので、処理できないなど、さまざまな点を考慮して一定の指導基準を検討していきたいと考えている。

◆ 空き家の利活用について

資料にもあるように、毎月 19 日に「空き家カフェ」が民間主体で開催されており、そちらにも参加しているが、5 月 29 日には、その一環で、実際に空き家の活用事例を見学するというまち歩きを行った。やはり現場に出向くのは実感もあり、興味深そうに参加されていた。もし空き家のオーナーさんで、活用を相談したいとか、興味ある方にご覧いただきたいと思われる方がいれば、ご紹介いただきたい。また、こういった、空き家の面白さや、ものづくりの魅力、まちの雰囲気と一緒に体験できる機会もあってもよい。

空き家問題も自然淘汰的なところもあり、区内でも新築に建て替わっているところもある。売れているということは、若い世代が入ってきていると思う。

空き家の問題解決は、複雑で、ケースバイケースでの対応となるが、根気強く進めていくしかない。

◆ 区広報紙について

「広報いくの」の全戸配布は、新聞をとっていない家には非常にありがたい。

◆ プレスリリースの内容について

「生野の魅力」の発掘・浸透のプレスリリースだが、どのような内容をプレスリリースしているのか教えてほしい。

やさしい日本語を始める時や昨年 12 月に行った外国人との交流イベントのこと、子育て（いくのっこ広場）関係、昨年 6 月に行った第 1 回生野ラグビーフェスティバル等などである。